

【小町】こまち

小野小町は平安前期9世紀の人。六歌仙・三十六歌仙の一人として知られている『古今集』を代表する女流歌人です。

古今集仮名序の

「あはれなるやうにて強からず、いはばよき女のなやめるところあるに似たり。強からぬは女の歌なればなるべし。」

[小町の歌はしみじみと心を打つ歌で力みがない。いわば美女が病にかかっているのに似ている。調べに力みがないのは女性の歌だからであろう]

という批評は、辛口批評で知られる紀貫之にしては極めて高い評価といえるのではないでしょうか。

小町の出生・生涯についての詳細は分かっておらず、そのため後世多くの伝説を生むこととなりました。

小町の出生地と云われるところは全国に数箇所あり、彼女の墓と称するものもかなりな数があるようです。

秋田県湯沢市小野も彼女の出生地という伝えのある町で、この伝承から「あきたこまち」という米の名称が生まれました。

小野小町は夢の歌人と言われます。夢を多く詠んでいることからの名称です。

- ・思ひつつ寝ればや人の見えつらむ夢と知りせば覚めざらましを
- ・うつつにはさもこそあらめ夢にさへ人めをもると見るがわびしさ
- ・かぎりなき思ひのままに夜もこむ夢ちをさへに人はとがめじ
- ・夢ちには足もやすめずかよへどもうつつにひとめ見しごとはあらず
- ・うたた寝に恋しき人を見てしより夢てふものはたのみそめてき
- ・宵々の夢のたましひ足たゆくありても待たむとぶらひにこよ

いにしえ人にとって夢は魂の活動する世界であり、現実と同様に価値のある世界でした。夢の世界の充実感や人生の充実そのものだったのです。

夢の価値を認めた上で小町の歌をみると切実な恋心が浮かび上がってくることと思います。

夢の歌以外にも秀歌はあります。

- ・色見えて移ろふものは世の中の人の心の花ぞありける

は彼女の傑作の一首でしょう。貫之が「あはれなるやうにて強からず」とう特徴がよく感じられます。

- ・わびぬれば身をうき草の根を絶えてさそふ水あらばいなむとぞ思ふ

(落ちぶれた私ですので浮草のように根を断って、誘う水の流れに身を任せようと思います)

この歌は文屋康秀からの誘いに対する返しです。このような恋歌を贈られた男は尋常ではいられないのではないのでしょうか。恋の恐ろしさすら感じさせる歌ですね。

小町の伝説は芸能にも採り上げられ多くの作品が生まれました。

これらは小町物と云われ、浄瑠璃にも能にも見られます。ことに能は『関寺小町』『鸚鵡小町』『卒都婆小町』『通小町』『草子洗小町』『雨乞小町』『清水小町』と多彩で、これらを七小町というそうです。

これらは、小町の歌の才能を賞賛する作品、年老いて美貌は失われ乞食となった衰老落魄説話、『百夜通い』を本とした話に大別されます。

『百夜通い』とは、小町の美貌に魅せられた深草少将が小町に近づこうとしますが嫌われ、百日間通えば受け入れよう言われたのを真に受けて九十九回通い、最後の雪の夜に凍死したという話です。浄瑠璃の『小町少将道行』もこの種に属します。

小町は巷にもいるはずです。

まだコンビニ・自動販売機が普及する前の時代、タバコ屋の看板娘はタバコ屋小町、豆腐屋の看板娘は豆腐屋小町と称され、街角の花として男性の視線を集めていました。

現代では小売店の形態が大きく様変わり、〇〇小町は存在し辛くなったようです。皆様の中には、かつての〇〇小町、現役の〇〇小町がいらっしゃるのではないのでしょうか。

<http://www.morita-fumiyasu.com/>

~ Copyright (C) 2011 ~私の書齋~ 森田文康. All Rights Reserved.~